

1歳児のあそび

感覚あそび

諸感覚から得られる反応を楽しむあそび

子どもは、物や素材の色・大きさ・重さ・匂い・手触り・形などにより面白さや心地よさなど、諸感覚を使って対話を楽しんでいます。保育者はその対話に加わり、その子の世界と一緒に面白がります。

微細運動あそび

手・指・手首を使うあそび

子どもは手指を使って、入れる・出す・引っ張る・つまむなどの遊びを楽しみます。大人から見るといたずらに見えることも「ダメ」「危ない」と遊びを止めるのではなく保育者は、どうしたら安全に無理なく、実現できるかを考えます。

粗大運動あそび

全身を使うあそび

子どもは、歩く・上る・下る・転がる・しゃがむなど、全身を使って、身体を動かす心地よさを感じています。保育者は決まった動きや使い方を固定しすぎず、子どものタイミングや発想(自由さ)を尊重します。



構成あそび

ものを組み立てたり、形象をつくり出すあそび

積み木やブロックなどを使って色や形を組み合わせる構成あそびは、物とじっくり対話する探索あそびを経て育まれていきます。物との対話の中で蓄積した経験から、頭の中でイメージしたり別のものに置き換えたりする力が育ちます。

コーナーあそび 空間・場

コーナー遊びは、子どもの主体的な遊びを支えています。「あの時のあれがしてみたい」とイメージが生まれ、実現できようにします。保育者は多様な用途で使えるもの、様々な見立てがでるものを用意し、子どものイメージが広がるようにします。

保育者の関わり

保育者は、子どもと環境との対話に耳を傾け、子どもの感じている良さに共感し、子どもと共に面白がりながら、対話に参加します。そして、環境をデザインしていきます。

そのために保育者は、

* 子どものイメージを実現するために、どう素材を使うか。

* 保育者は、1つ1つの素材に問いかけて、どう魅せるか。

を考えます。

例えば

ポットン落として見てみると...

- ・何の容器に落とす?
- ・容器は中が見えるもの? 見えないもの?
- ・容器の大きさや高さは?
- ・落とす穴の大きさは?
- ・何を落とす?(素材・大きさ・形・感触...)

自分らしさが大事!
他の先生と同じでなくていい。



1歳児クラスの良さは、複数の保育者でチーム保育を行っていることです。子ども一人一人と応答的に関わるために、お互いの感性を大切にします。

研修生の報告書より

目の前の子どもが今何を楽しみたいのか、何を感じようとしているのか、子どもの目線に立って環境を作っていくことを学んだ。絵本を背表紙が見える並べ方ではなく、表紙が1冊ずつ見えるように置き方を変えてみた。子どもたちが自ら選びその場でじっくりと見る様子が見られた。今まではいろいろな絵本を手当たり次第にとる姿が多かったが、じっくりと選ぶ様子も少しずつ見られるようになった。また、「読んで。」と絵本を持ってくる姿が増えたと感じている。

自分の保育を振り返るとまだ余裕もなく目標を達成しようと思っていたが、目的は子どもが喜ぶことだと学んだ。子どもの声を考えながら保育を行うと、「掴みあそびがしたい。」「落とす遊びがしてみたい。」など様々な声が聞こえてきた。対話を楽しみながら、子どもたちにとって安全で好奇心が満たされる環境を作りたい。また、泣いている子や主張の強い子に目が行きがちだったが、集団の中で目立たない子の表情の変化を注意深く見ていき、気持ちを汲み取っていききたい。